

## 第6年次 (2008年度) 上半期の活動

## 第6年次半期の活動-継続的活動

### ■ パイロット活動 カトマンズ郡

- 正規学校とのリンケージを強める活動
- ファシリテーターへの投入
- コミュニティ活性化の活動



### ■ ノンフォーマル教育センター-NFEC 技官チーム定例会

### ■ 郡教育事務所定例会



# 第6年次半期の活動-継続的活動

## ■ ダディン郡・カトマンズ郡パイロット活動村での村落教育計画VEP策定の調整・実施支援



## ■ 情報管理システム EMISの整備

नेपाल सरकार  
शिक्षा तथा खेलकुद मन्त्रालय  
धनीपचारीक शिक्षा केन्द्र  
सानोढोमी, भक्तपुर ।

न.शि.का.सं.नं. १९  
Draft for discussion

(सातुदिपालका अनुगमनकर्ताले भरने फारम)

१. कक्षा संचालन स्थान/ठेगाना: गाविस/मया ..... वडा नं. .... गाँउ/टोल .....  
मातृ विद्यालयको नाम ..... ठेगाना: गाविस/मया ..... वडा नं. ....  
कार्यक्रमको नाम: SOP/FSP (✓) कक्षा/तह: १/ २ / ३ (✓) चिह्न लगाउनु होस्। चालु कक्षा/तह पुरु मिति: / /  
कक्षा सन्चालनको समय: .... देखि .... बिहान/बिपुकी/दिउँसो। स.का.को नाम धर .....  
अनुगमनको मिति र समय २० / / का दिन ..... बजे देखि ..... बजे सम्म



२. भर्ना भएको क्षय सहभागी सङ्ख्या र अनुगमनका बेला उपस्थित सहभागी सङ्ख्या

विवरण	जम्मा सहभागी			उपस्थित सहभागी			जतनाही मात्र			क्यामरा
	छात्र	छात्रा	जम्मा	छात्र	छात्रा	जम्मा	छात्र	छात्रा	जम्मा	
भानु उपका सहभागी सङ्ख्या										
अनुगमनका बेला उपस्थित										
अनुपस्थित सङ्ख्या										
अपस्थित जसमा कक्षा छोडने सङ्ख्या										
पुनः भर्ना कक्षा छोडने सङ्ख्या										
कक्षा छोडेर पनको मुख कार्यालय										

३. अनुगमनका अखत पढाइनेको पुस्तक (विषय) ..... पाठको नाम ..... पेज नं. .... विषय बस्तु .....
४. अनुगमनकर्ताले आफुले कक्षा निरीक्षण गर्दा गरेको मुद्दा मुख्य कार्यहरु उल्लेख गर्नुहोस् ।  
क) .....  
ख) .....  
ग) .....
५. कक्षा संचालनार्थ कुन सामग्री कलिनै र कस्तो गुणस्तरको उपलब्ध भएको छ ? ( शीक्षक सबको सुरुमा)

क्र.सं.	उपलब्ध सामग्रीहरूको नाम	सङ्ख्या (कति)	कक्षाबाट (कस्तो दियो)	मिति	गुणस्तर ( कसो, साइज )	निरीक्षणका बेला मौज्जाय रहेको
१	पाठ्य पुस्तक/पाठकम					
२	शिक्षक निर्देशिका					
३	कापी					
४	विषयाकावम					
५	क्याम					
६	पेपिपन कटर					
७	कानो पाटी					
८	बक					
९	डस्टर					
१०	हाजिरी पुस्तीका					
११	निरीक्षण पुस्तीका					
१२	मुल्याकन पुस्तीका					
१३	अन्य					



## プロジェクト活動完了に向けて

### ■ エンドライン調査の実施(2つ)

- 知識・意識・実践(KAP)調査はほぼ終了
- 報告書完成中 プロジェクト活動のなにかが親の意識に大きな影響を与えたか分析中
- 子どものためのノンフォーマル教育プログラム ASP現状調査はこれから実施 (コミュニティ主体のASPが従来のASPに比べて効果を与えた影響を計る)



### ■ コミュニティ活性化(モービライゼーション)の成果まとめワークショップの実施

- コミュニティ・モービライゼーション活動で、何が成果があったかを協働NGO,現場の教室運営委員会CMC・教育ボランティアEVと話し合う



# プロジェクト活動完了に向けて

## ■普及のための中長期計画作成支援

- 集中ワークショップを開催し、教育省、教育局などの関係者と協議方向性合意



### ■ バングラデシュへの技術交換研修

- カトマンズ郡教育事務所主体の企画
- 最終年のパイロット活動に生かす



# パイロット活動を通じた成果－ 教育サービス供給側の改善のための活動

## ■ ダディン郡でのパイロット活動の成果

－ 9カ所のパイロット活動対象地域のうち7カ所にコミュニティ運営学校が設立された

－ 進学・編入率

3年生まで在学した子どもは100%

1年生に入学した子どものうち69% (SOP75% FSP62%)

⇒ 今後、SISMやJICA無償ヘイグジット戦略としてつなげる可能性をJICAの担当関係者と検討中



## ■ シラハ郡でのパイロット活動の成果

－ 進学・編入率

3年生まで在学した子ども90%(SOP100% FSP80%)

1年生に入学した子どものうち66% (SOP78% FSP54%)



## ■ カトマンズ郡でのパイロット活動の成果

－ 平均出席率79% (SOP平均77% FSP平均81%)



## ■ 教育行政関係者へのアドボカシー

教育省、教育局、関係ドナーなどへのEFAの  
中の子どものためのノンフォーマル教育再認  
識・再考の機会を創出



## ■ 協働NGOによる関係者間支援の促進

- 村役場、郡役場、地域の有志、篤実家などからの敷地・建材提供など教室建設支援
- 教育ボランティアの給与提供
- 制服、バッグ、文房具、教材の配布
- 健康診断実施など



### ■ 正規教育との連携・質の均等化

(子どものためのノンフォーマル教育は非常に正規教育に近い)

現場レベルの連携の強化とシステム化

正規教育統括の教育局とノンフォーマル教育センターの調整

ミーティング

ファシリテーターの待遇や教育の質も正規教育並みに

□SOP⇄ 分校化→ 教育局

### ■ コミュニティ・モービライゼーションのメカニズム

ASPにおけるコミュニティ・モービライゼーション効果は認識される

### ■ 都市部FSP教室の難しさ

カトマンズ郡2年目から3年目へのドロップアウトでも都市部のFSP教室はもともと登録者が流動的な傾向があり、内戦停戦のため地方への帰省者も出て昨年度に引き続きドロップアウトがでている。子どもが11人だけになった教室もあるがプログラムのフレームワークで新しい子どもの受け入れは難しい



## 今後の予定

- ASPガイドラインの開発
- 組織強化・制度開発の成果をまとめるWSの開催
- ASPガイドラインを通してCASPの成果を情報共有するセミナー・ワークショップの開催

## 今後の課題

### ■急激な国家教育政策変更への対応

- 初等教育期間5年から8年への変更(ASPは5年生までをみるプログラム)
- 初等教育の義務化、無償化政策
- SOPは正規教育に一教員が本当に赴任するか、社会的に不利益な立場の対象者でコミュニティ活性化活動は考慮されず継続性に不安
- 大人の識字は2010年までに100%識字を目指した大型キャンペーン計画(3倍以上の予算追加の予定)。カウンターパートのキャパシティの問題は深刻になる可能性

### ■新5カ年投入計画(School Sector Reform SSR)への対応

- バスケット・ドナー協調の5カ年計画との協調

### ■技術協カプロジェクトとしての成果

- ASPガイドライン・プロジェクトの成果をまとめるにあたっての人的資源・NFECのオーナーシップ
- 今後の普及に向け、より深い人材育成を考慮

## 今後の課題

- **子どものためのノンフォーマル教育のリソースの絶対的不足は解消されず**
  - 11%が就学していないのに、正規教育に対して0.5%以下の予算投入
    - ➡ 識字キャンペーンでも子どもへの対応は考えられず、将来的な識字率に影響の可能性



### ■効果・モデルとして有効な部分

- マザースクールとの連携（モニタリングやファシリテーターのサポート）、コミュニティ・モビライゼーション（児童クラブ、教育ボランティアの活動など）

### ■効果・活動として有効な部分

- 技官チーム定例会や郡教育事務所定例会
- 国内スタディツアーや技術交換などの事例観察の研修
- ネットワーキング活動

### ■欠けていた点

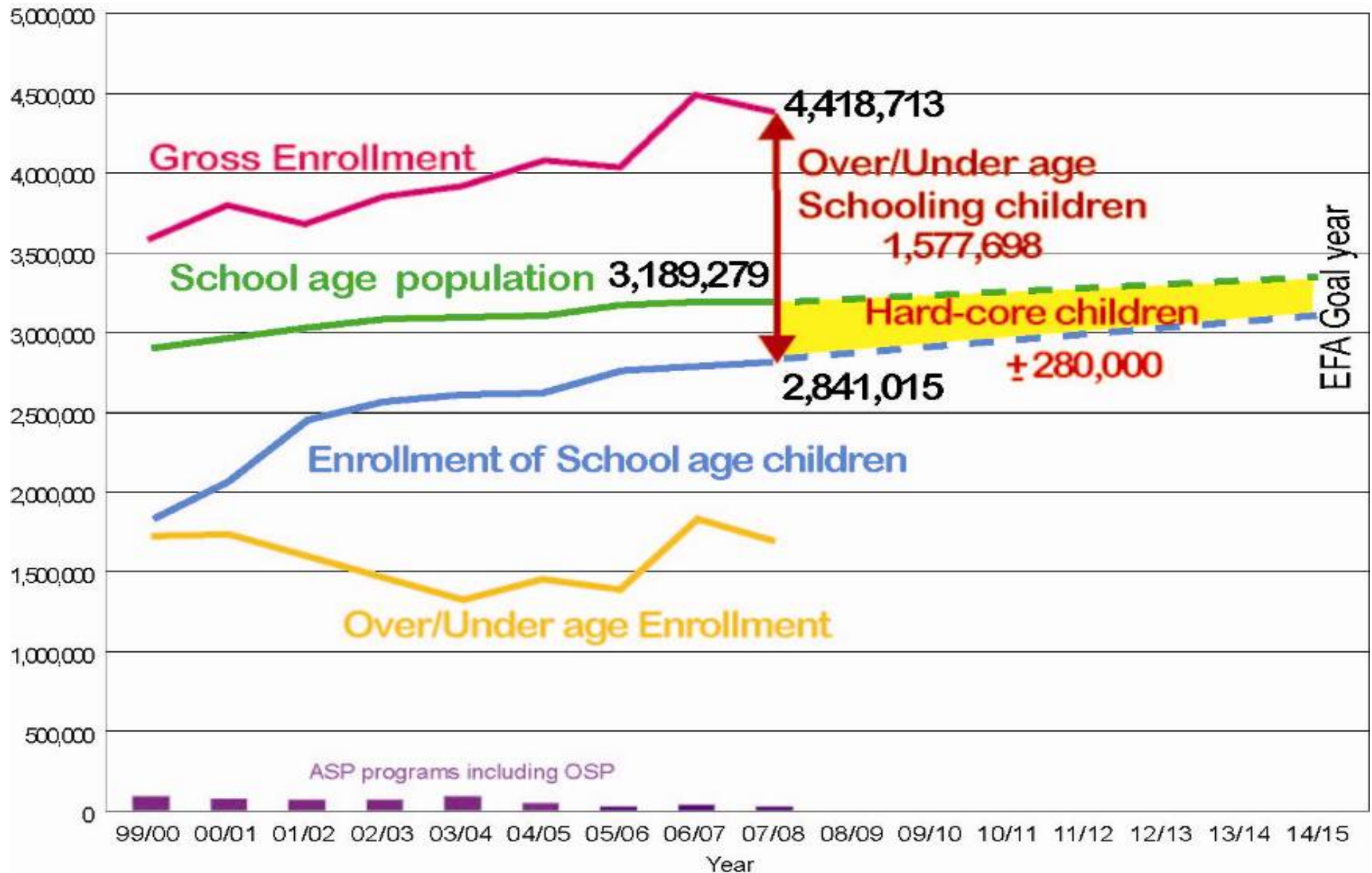
- 技術移転活動が限られていた
- 技官チーム定例会は有効であるが管理関係の議論ではなく、技術関係の議論に絞っていくべきであった
- 他のノンフォーマル教育プログラムとの連携を全く考慮していなかった
- プロジェクト活動のモニタリングの数データが不足がちであった（出席率など）



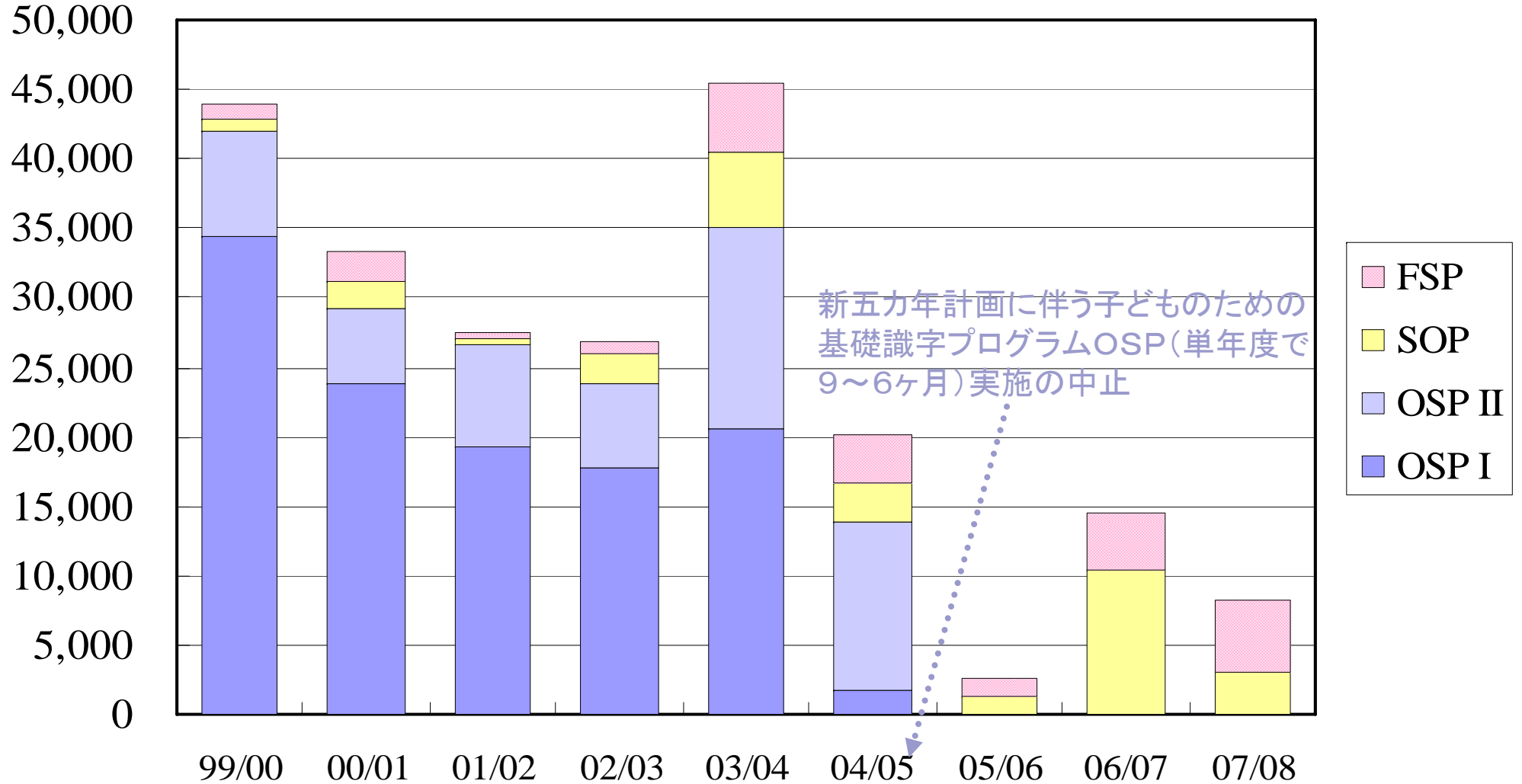
# 子どものためのノンフォーマル教育の中長期普及計画

## 集中ワークショップの内容

# ノンフォーマル教育の対象となる子どもたちの状態



# 99/00年から07/08年までの 子どもの基礎識字OSPとASP (SOP/FSP)の推移



- 34万人の学齢期の子どもたちが学校にいない
- 28万人の子どもが生活状況の難しさから学校に行けないままになる
- ASP (子どものためのノンフォーマル教育プログラム)への投入は非常に少なく、しかも利益を受けている子どもの数は減少している



# なぜノンフォーマル教育が必要か

- 社会的に不利益な社会環境の子どもたちには代替的な教育機会が必要
- コスト効果がある





# ASPの行方

- SOP ⇄ 分校化 → 教育局

- FSP ⇄ NFEC

他にも様々な子どものためのノンフォーマル教育プログラム（*中学3年を2年で実施する中等教育FSPや通信教育的なオープンスクールなど*）が開発されつつある

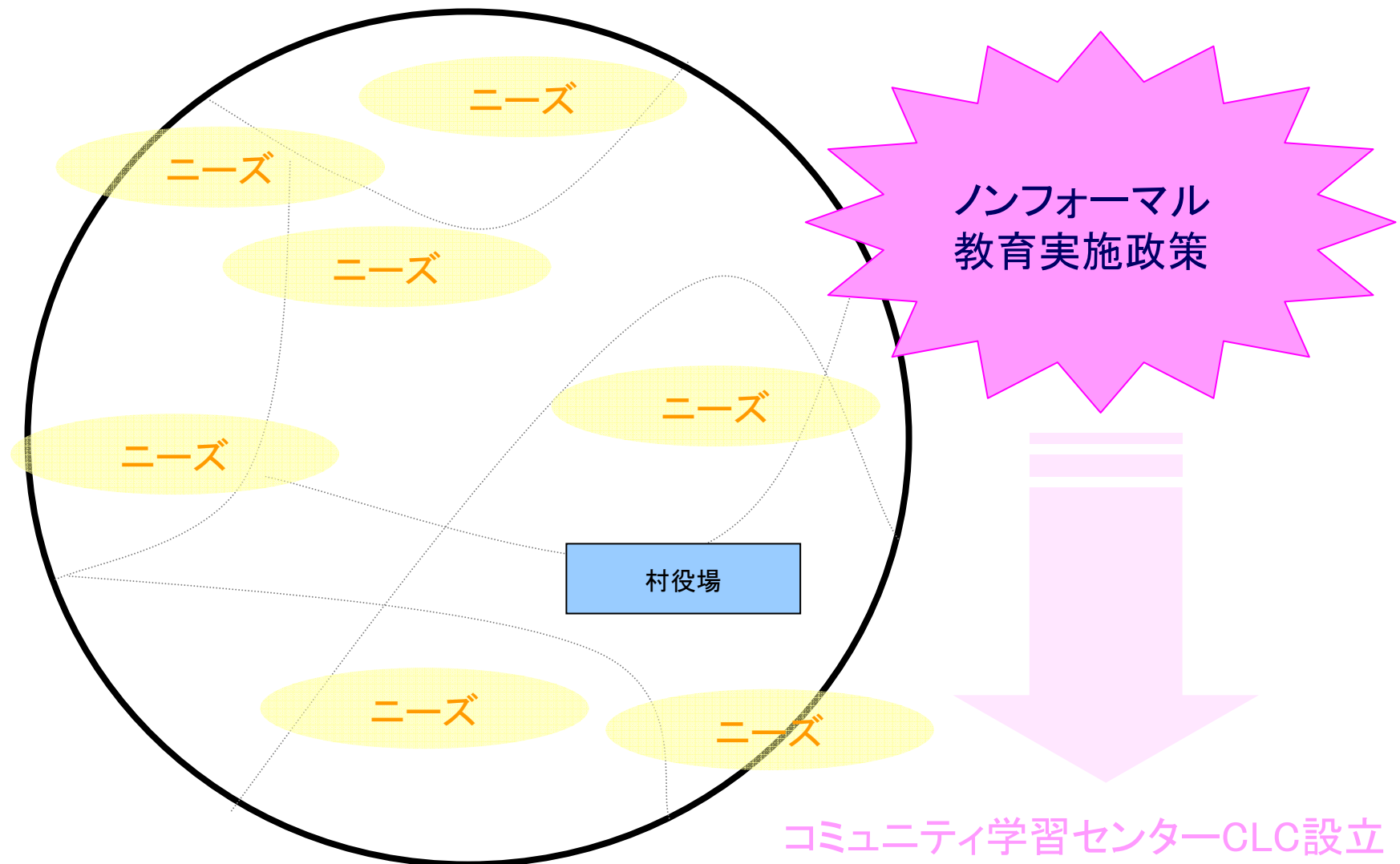
# ノンフォーマル教育の計画と実施モデル

## VEP based CLC

村落教育計画ベースのコミュニティ学習センターアプローチ

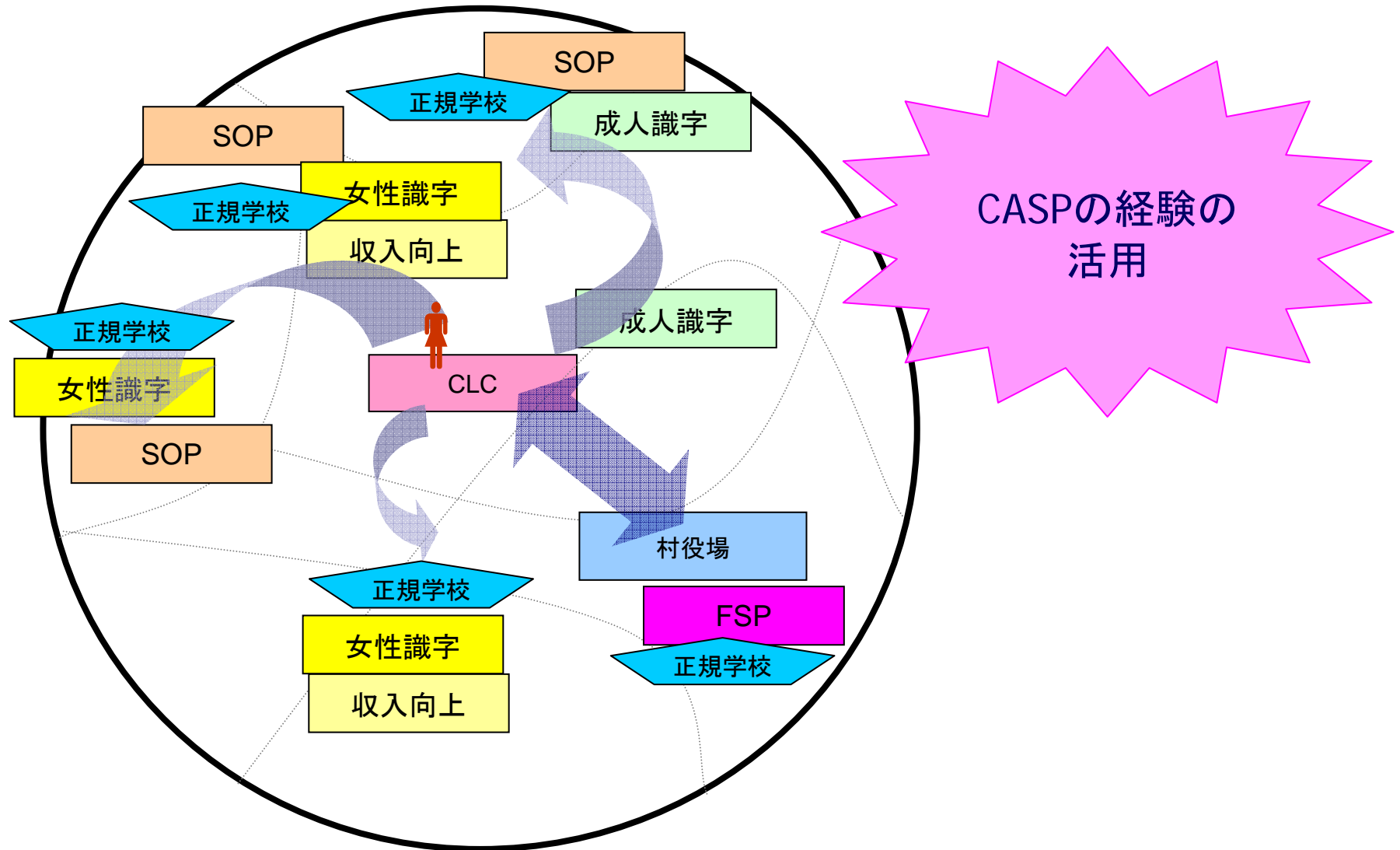


## 村落教育計画VEP導入（村内に9ある区 wardのニーズアセスメント）



# 中長期戦略計画・CASP後の普及戦略

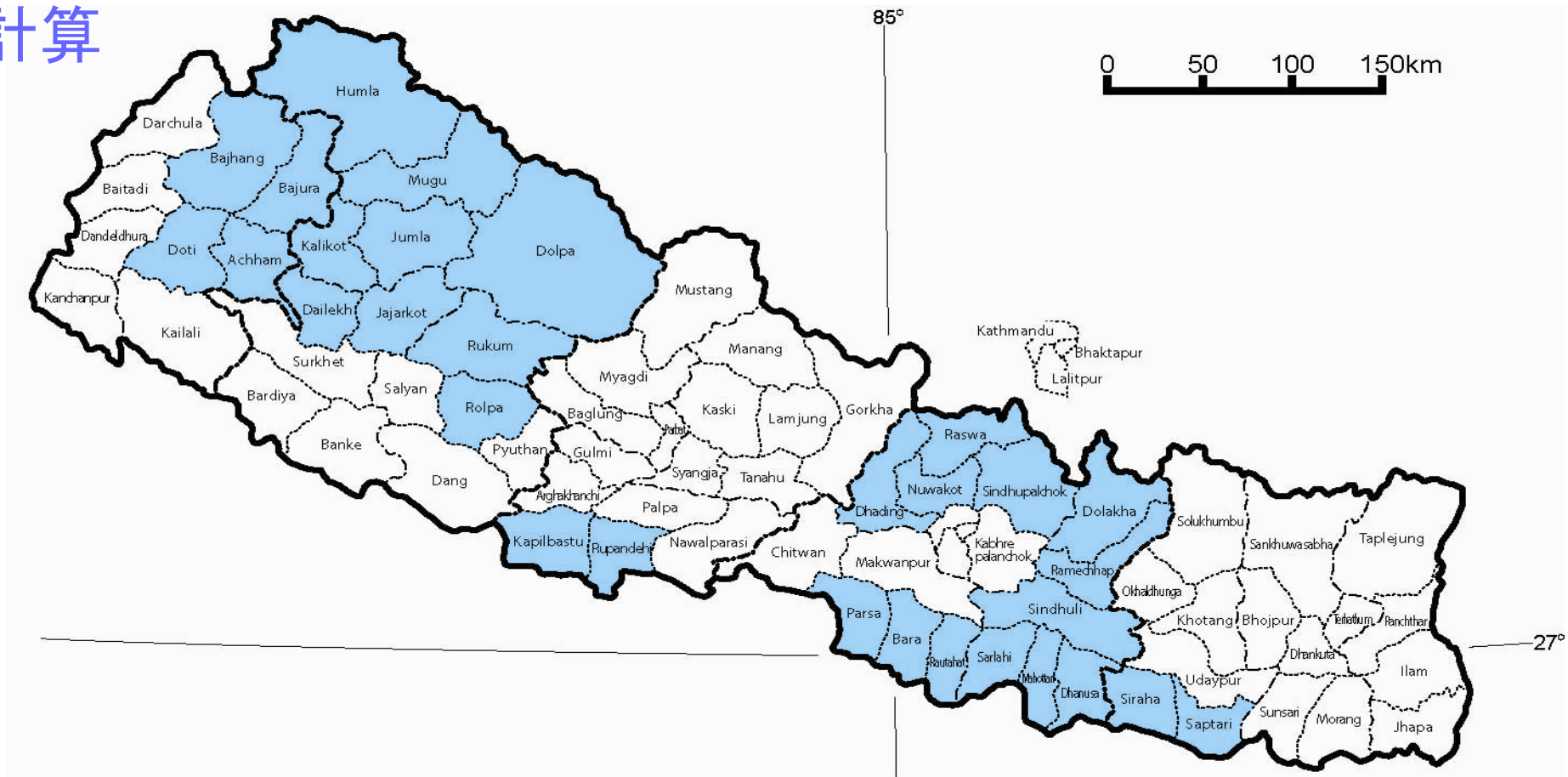
## コミュニティ学習センターCLC中心のノンフォーマル教育実施



## 30郡重点の普及戦略計画

なぜ30郡を中心に？

- 識字率が低く、純就学率も低い
- 78%の社会的不利益の子どもたちはこの地区にいることになる  
計算



ハードコアグループの子どもたちの就学機会拡充を願いつつ

